

—SUITA MOTTANOCITY ACTION PLAN—

MOTTAINAI ガイドライン

第 I 部 日常行動編

(全職員向け)

もったいないを意識した活動の
ヒントにしてください



1 MOTTAINAI ガイドラインの全体構成

MOTTAINAI ガイドラインは、3部構成となっており、令和2年（2020年）4月に改定された「SUITA MOTTANOCITY ACTION PLAN」（以下「SMAP」という。）における市有施設の温室効果ガス排出量の削減目標を達成するため、全庁的なエネルギー削減等を推進するための具体的な取組みを示すものです。

第Ⅰ部は全職員向けの「日常行動編」、第Ⅱ部は施設管理者向けの「設備の運用改善編」、第Ⅲ部は施設及び設備の改修や建築の際に活用する「設備の導入・改修編」です。

本ガイドラインは、職員のみなさんが使いやすいように、具体的な取組や対策を記載し、図やイラストをつけることで内容を理解しやすいように試みました。

本書は**第Ⅰ部「日常行動編」**です。ぜひ日々の取組に活用してみてください。

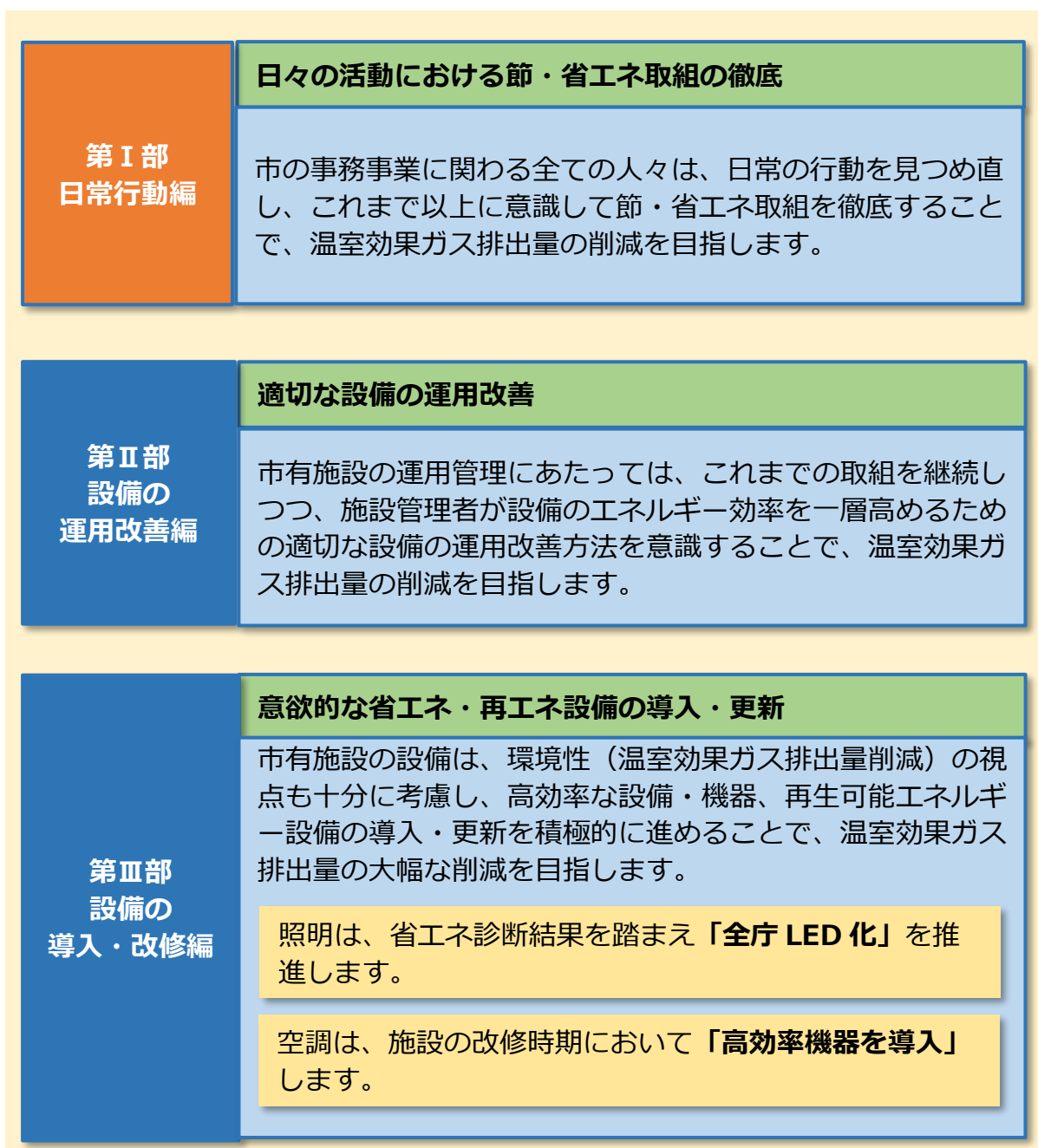


図 1 全体構成と取組の基本方針

2 MOTTAINAI の精神に基づいた取組内容 ～日常行動編～

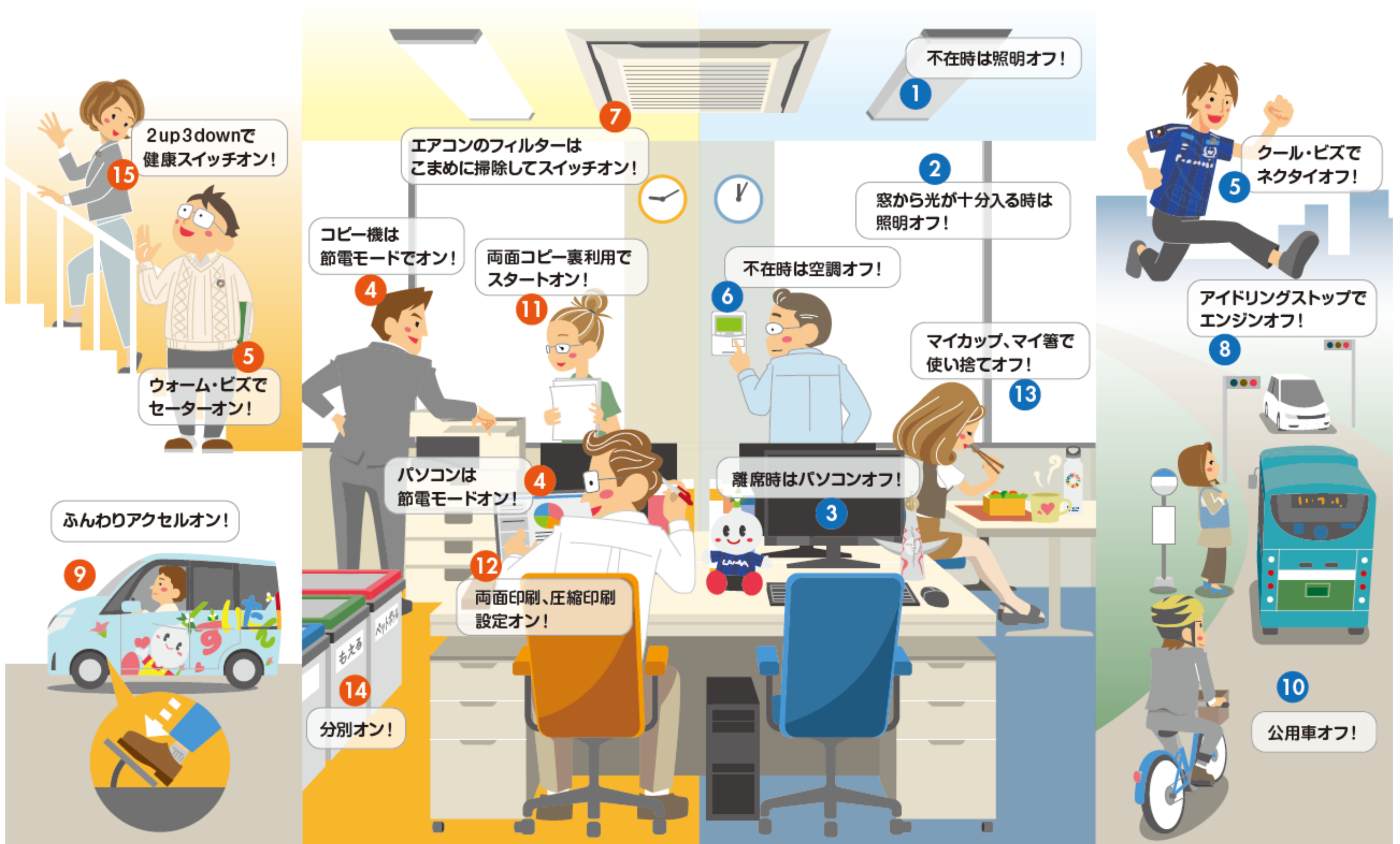
SMAP で示す取組のうち、エネルギー起源 CO₂ 排出量の削減効果が比較的大きく見込めるものや、省資源対策について、具体的な取組を示します。

項目	取組	削減量		図中No.
照明	不在時に照明をこまめに消灯する 蛍光灯（32W×2本）10台を1日30分消灯した場合	CO ₂	71.4kg/年	①
		杉の木	5.1本	
照明	昼光を積極的に利用し、照明の利用を控える 蛍光灯（32W×2本）10台を1日3時間消灯した場合	CO ₂	214.1kg/年	②
		杉の木	15.3本	
OA 機器	パソコン等を長時間使用しないときは電源を切る ノートパソコン10台を1日3時間オフモードにした場合	CO ₂	43.5kg/年	③
		杉の木	3.1本	
OA 機器	パソコン・コピー機等を省エネモードに設定する プリンター1台（90W）を1日4時間、省エネモード（10W）で使用した場合	CO ₂	35.7kg/年	④
		杉の木	2.6本	
空調	クールビズ・ウォームビズを実践する 1000㎡の事務所で、冷房時の設定温度を1年間で1℃高く設定した場合	CO ₂	2,124kg/年	⑤
		杉の木	151.7本	
	空調	空き室や不在時等は空調を停止する 空調停止のルール化により1年間で1%の電力を削減した場合	CO ₂	424.8kg/年
杉の木			30.3本	
空調	空調フィルターを定期的に点検・清掃する 空調フィルターの定期点検を月に1回実施し、動力負荷の口スを防ぎ、1年間で4%の電力を削減した場合	CO ₂	4,248kg/年	⑦
		杉の木	303.4本	
		CO ₂	63.4kg/年	
公用車	駐停車の際はアイドリング・ストップを心がける 公用車1台が、1日10分間停車した際にアイドリングをやめた場合	杉の木	4.5本	
		CO ₂	154.8kg/年	⑨
	公用車	発進時は緩やかに「ふんわりアクセル」でスタートする 年間走行距離10,000kmの公用車（ガソリン15km/Lの燃費）1台で1年間「ふんわりアクセル」に取り組んだ場合	杉の木	
公用車			公共交通機関や徒歩・自転車で移動する 職員1人が、往復2kmの運転（ガソリン15km/Lの燃費）を控え、徒歩か自転車に変更した場合	CO ₂
	杉の木	4.6本		
紙	両面コピーや裏面利用を実践する 職員1人が、毎日10枚、徹底して庁内用の資料などの裏面を1年間利用した場合	資源	2,100枚/人/年	⑪
		資源	1,470枚/人/年	⑫
廃棄物	マイカップ・マイ箸などを使用する 職員1人が、毎日徹底してマイカップ・マイ箸を使用した場合（紙コップと割り箸を22gに設定）	資源	4,620g/人/年	⑬
		資源	6,300g/人/年	⑭
健康	2UP3DOWN運動を実践する 職員1人が、階段を毎日100段昇った場合（エレベータの電力を減らせるほか、健康増進にも繋がる。）	健康	21,000kcal/人/年 (1日100kcal)	⑮

※上記の取組によるCO₂削減量を杉の木1本のCO₂吸収量を約14kg-CO₂とした場合、何本分の吸収量となるかを換算したものです。

※図中No.は、「職員なら、みんなやってるオンとオフ。」の中の番号と対応しています。

職員なら、みんなやってる**オン**と**オフ**。



■ 参考資料

(1) 職員アンケート調査結果概要

臨時雇用員を除く全ての職員を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえた方向性は以下のとおりです。

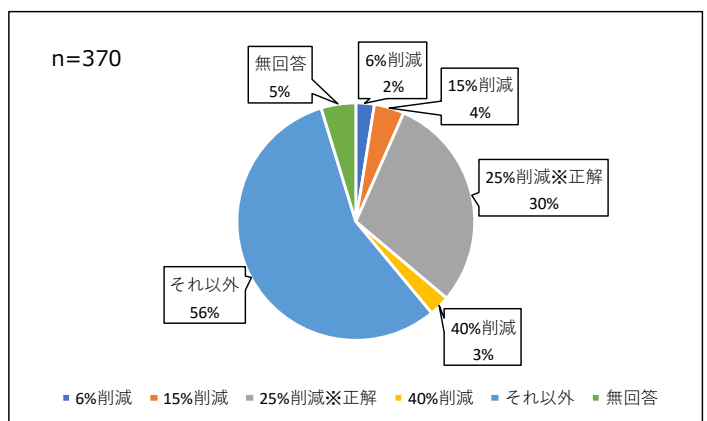
アンケート調査結果を踏まえた方向性

【方向性 1】 SMAP の計画目標が十分に周知されていないため、計画目標や内容に関する啓発を推進します。

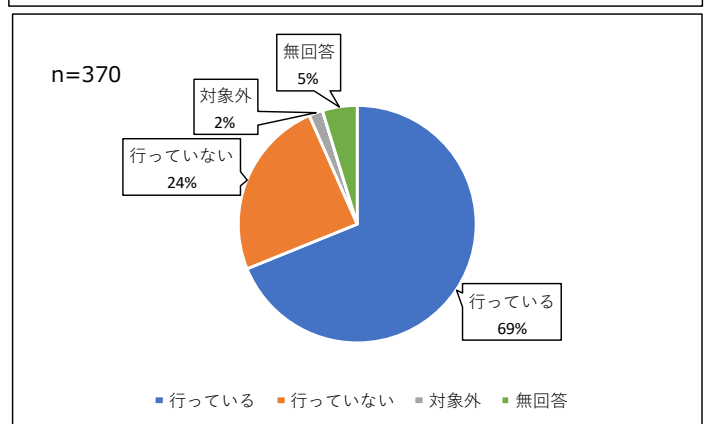
【方向性 2】 日常の取組を周知し、市の事務事業に関わる全ての人々が温室効果ガス排出量削減のための取組を推進します。

【方向性 3】 組織や施設の特性を踏まえた取組を推進します。

○エコオフィスプランが定める削減目標値を正確に理解していた職員は 30%（正答は 25%削減）であり、高い削減目標を設定した取り組みを行っているとの認識が少ない可能性が示唆されました。



○また、1 時間以上の離席時はパソコンの電源を切る（又はスタンバイにする）とした職員（行っていると回答）は 69%であり、取組の推進の余地があります。



○施設又は室課の取組として、温室効果ガス（エネルギー使用量）削減上の課題を明確にしている（行っていると回答）と回答した職員は 50%であり、環境に配慮した一般的な活動には取り組むものの、施設や組織の特性に応じた取組を推進する必要があります。

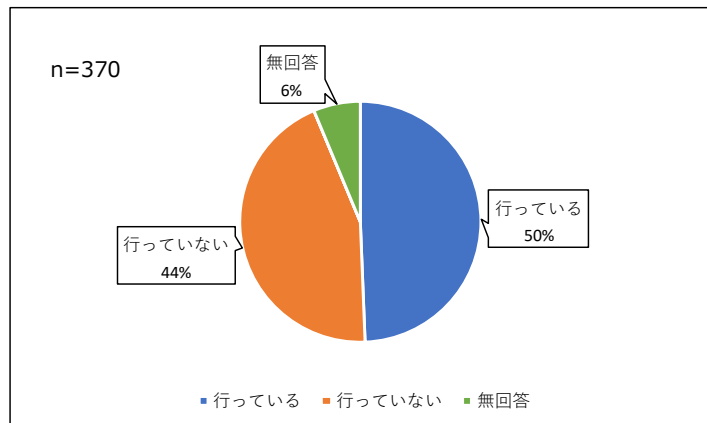


図 2 アンケート結果の概要